

Yamanashi Shimpou
「山梨ダルク」

依存症の苦しみ訴える

甲府市でセミナー開催

一流大の学生らによる大麻所持事件が相次ぐなか、13日、甲府市内で、薬物依存症の克服を目指す組織「山梨ダルク」などは「薬物依存症セミナー」を開き、入所する男性ら4人が「私が大麻にハマった理由」と題し、依存症に苦しんだ体験談を話した。県警によると、県内では今年11月末までに大麻取締法を99件33人が摘発され、昨年の24件14人を上回り、過去10年で最多となっている。

「ダルク」は薬物依存リ施設で、1988年に自身症回復施設(Drug Addiction Rehabilitation Center)の略。日 藤恒夫さん(現日本ダルク代表)が東京都荒川区に開設。本初の民間薬物依存症リハビリ

08年10月時点で全国に54施設。山梨ダルクは今年2月、51番目に開設された。各ダルクは独立採算制で、運営費は入所者に自治体から支給される生活保護費や、各種団体からの寄付金で賄われている。山梨ダルク(甲府市伊勢4丁目)は施設長・佐々木広さん(40)ら4人で運営。甲府カトリック教会のミシェル・ゴーチエ主任司祭ら会員30人が5月に立ち上げた「支援する会」が経済的支援を行っている。



第1回薬物依存症セミナー「何故10代の若者たちが大麻に手を出すのか?」
大塚依存症になった経緯を話す体験者(13日)

山梨ダルクでは現在、20代から60代までの男性22人が共同生活を営む。いずれも県外出身。「自宅が近いと甘えが出たり、薬物使用時の記憶が呼び起こされるからだ」という。

入所者は大麻や覚せい剤など薬物中毒や、アルコール依存症患者。入所後の回復プログラムでは医療ケア以上に、一日3回、利用者同士が互いの苦しみや悲しみを共有するグループセラピーを軸に想い出たり、薬物使用時の記憶が呼び起こされるからだ」という。

「一方、13日のセミナーでは山梨ダルクのスタッフ4人が依存症にまつた経緯を語った。山梨ダルクのスタッフの一人、菊池武宏さん(32、岩手県出身)は、17歳の時、先輩から大麻を勧められ、軽い気持ちで手を出したという。「ふわふわした気持ちになり、体が楽になった。22歳のころには覚せい剤にエスカレート。「捕まらなければいい、罪悪感はない」と当時を振り返った。29歳の時に逮捕され、懲役1年6月執行猶予3年の判決を受けたが、薬物依存は続き「気が付いたら誰からも見放されてい

た。それがさらに薬の癮を増やした」と話す。菊池さんは07年にダルクと出会い、グループセラピーなどを重ね、薬物を断つことに成功。「感情のコントロールを薬物に頼ってきたので(依存症を脱却し)やっと薬癮をさらけ出すことができた」という。今では中高生の薬物乱用防止教室に招かれ、体験談を話すまでになった。

軽い気持ちで吸い始め 薬なしでは生きていけなくなった

薬物依存症者の自助組織「山梨ダルク」とその支援会が13日、「薬物依存症セミナー」を甲府市丸の内2の県ボランティア・NPOセンターで初めて開いた。全国で大学生やスポーツ選手らが次々と大麻取締法違反で摘発される中、薬物の怖さを多くの人に知ってもらおうと企画。ダルクのスタッフ4人が薬物依存症に苦しんだ体験を告げた。

また薬が必要。1人では、18歳で吸った大麻を物の乱用を始めるケースのようにもできなくなってきた。山梨ダルクのスタッフ4人が薬物依存への「導入薬剤」との研究もある」と話した。

「覚せい剤には抵抗があった。あるけど、大麻なら大丈夫。19歳で東京。さらなる夫」。この日体験を刺激求めて「コカインや」語った山梨ダルクスタッフ 合成麻薬にも手を出した。岩手県内の高校に通った。05年に覚せい剤に取締法違反(使用)容疑で逮捕されるが、執行猶予で釈放されるその定ちで初めて大麻を吸った。「ふわふわして、気でまた覚せい剤を吸いに持たないんだか悪いんだか分からなかった」という。ただ、「大麻を吸ったが、求人誌の小さい字を眺むために覚せい剤を打つ。履歴書を書く時

「山梨ダルク」スタッフら
「覚せい剤には抵抗があった。あるけど、大麻なら大丈夫。19歳で東京。さらなる夫」。この日体験を刺激求めて「コカインや」語った山梨ダルクスタッフ 合成麻薬にも手を出した。岩手県内の高校に通った。05年に覚せい剤に取締法違反(使用)容疑で逮捕されるが、執行猶予で釈放されるその定ちで初めて大麻を吸った。「ふわふわして、気でまた覚せい剤を吸いに持たないんだか悪いんだか分からなかった」という。ただ、「大麻を吸ったが、求人誌の小さい字を眺むために覚せい剤を打つ。履歴書を書く時

薬物依存症の苦しみ告白

薬物依存症セミナー
「山梨ダルク」スタッフが大麻に手を出すの



住吉病院 学術数は過去10年間で最も31人(37件)を、昨年1年間の14人(24件)を大幅に上回っている。特に29歳以下の若年層が19人と6割以上を占めた。今年10月、県立高1年の男子を含む16歳少年2人が同法違反(所持など)容疑で書類送検されたほか、6月にも山梨学院大4年の男子学生が同容疑で逮捕されている。

県警組織犯罪対策課によると、県内では今年、全国的な傾向と同様、大麻取締法違反容疑の検挙数が急増し、10月の検挙数は31人(37件)を、昨年1年間の14人(24件)を大幅に上回っている。特に29歳以下の若年層が19人と6割以上を占めた。今年10月、県立高1年の男子を含む16歳少年2人が同法違反(所持など)容疑で書類送検されたほか、6月にも山梨学院大4年の男子学生が同容疑で逮捕されている。

→ 平成二十年十二月十九日(金)
山梨新報記事
↑ 平成二十年十二月十四日(日)
毎日新聞記事